



## 講座のために用意されたおもちゃの数々



来年、三郷町におもちゃ博物館オープン  
運営の要「学芸員」の養成講座開催



おもちゃ博物館や学芸員などについて説明する橋高さん



聞き出した相手のプロフィールを基に、他の人へその人を紹介

三郷町立野北のF S S 35キャンパスに来年3月開館する「奈良おもちゃ美術館(仮称)」で、数百種類にのぼる、おもちゃを使った遊びの提供や館内の案内などを行う「おもちゃ学芸員」の養成講座が8、9の両日、同町勢野西の町文化センターで開催された。20歳代から70歳代の男女計36人が参加。他県にある「おもちゃ美術館」を例にあげての説明や、実際におもちゃに触れるなど、参加者らは学芸員についての知識や心構えを学んだ。

おもちゃ・美術館は、国内外から集めた木のおもちゃを使用した木育の普及や、質な遊びを、年代、国籍、障害の有無を問わずに提供する体験型ミュージアム。「おもちゃはアート」の考え方から、美術館と名付けている。東京都や徳島県、沖縄県などで12館展開。基本的な運営方針や仕組みは共通だが、地域ごとに地元のおもちゃの展示や、その場所な

各館はそれぞれ自治体や団体などが運営。基本的な運営方針の指導と、専属で活動する各館の「おもちゃ」学芸員」養成講座などについて、NPO法人芸術遊び創造協会（東京都新宿区・多田千尋理事長）が行っている。

A circular portrait of Dr. Toshiaki Imai, a man with dark hair and glasses, wearing a white shirt and holding a microphone.

## 養成講座であいさつ する木谷町長

A group of people are gathered around a table, playing a board game. In the foreground, a person's hands are visible as they roll a die. On the table, there are several board game components: a yellow box labeled "Ludo Junior", a small red cube, a yellow tray containing several colorful sticks or pens, and some cards. In the background, a man in a blue shirt and lanyard stands near a wall. Two other men are seated at the table; one is wearing glasses and a brown shirt, while the other is wearing a grey shirt and a watch. They appear to be engaged in a discussion or a game.

A group of three people are gathered around a table, playing a card game. The person in the center, wearing a white mask and a green shirt, is actively involved in the game, while the two others, wearing white shirts, look on. The table is covered with various cards and a small electronic device. In the background, there are shelves with books and other items, and a large window with a view of the outdoors.

知識や心構え、楽しく学ぶ

養成講座冒頭で木谷慎一郎町長は「本日受講いただくのは、運営の要になるおもちゃ学芸員の養成講座です。関西初のおもちゃ美術館は、子どもから高齢者まで、年齢関係なく自然と交流できる場になるかと思います。三郷町では『つながりを作る』をキーワードに取り組んでいますので、この場から多世代交流のまちづくりになれば」と話した。引き続き、東京おもちゃ

らはメテ  
話を聞き  
のユーモア  
声を上げ  
講座で  
やに触ね  
まれのブ  
イ「ジ  
な遊び  
動物や  
を表現す  
やんけ  
手のプロ  
し、その

セを取るなど真剣に  
さながら、橋高さん  
セラスな説明に笑い  
りた。

明を熟読しないと理解できないものまでさまざま。これまで見たこともないようなおもちゃを前に参加者は遊び方を確認していた。

各グループで実際に遊んだあとは、1人と「グッドトイ」を残して別のグループメンバーと交代。残った1人が「グッド・トイ」の遊び方をレクチャーし、グループのコミュニケーションを行った。

並みの特徴を表現する「通りり」で分け、遊びの中に三郷町や奈良県の文化的な特徴を取り入れるとしている。

を磨く「やが認定トイ」の土玩貝、芸品」ならはメ工話を聞きのユーモ声を上げ

ことのできるおもちゃが定される「グッド」他「木育玩具」や「郷土玩具」なども解説。参加者を取るなど真剣にさながら、橘高さくモラスな説明に笑いりた。

また講座で用意した「グッド・トイ」を、各グループに1つずつ分配。「グッド・トイ」は、直感的に遊び方が分かるものから、説明を熟読しないと理解できないものまでさまざま。これまで見たこともないようなおもちゃを前に参加者たる達が「何が何だかわからない」といふ。

養成講座でいさつ  
する木谷町長

使用。ジエリクで数えられる上限に達したところで聞き出したプロフィールを基に、他の人たちへその人を紹介。交流を図ると共に固定概念にとらわれない遊び方でゲームを生み出し提供する「おもちゃ学芸員」の活動例を本音)。

見たこともないおもちゃを前に、遊び方を確認し実際に遊んでみる参加者たち

他のグループに一人だけ移動して、おもちゃの遊び方や「ミニユニーク」ショーンをとり「おもちゃ学習会」の仕事を体験